1959年1月31日第3種郵便物認可（月615円郵便160円、会員は会費に含む）

週刊 うたごえ新聞

12／8
（2003年）
NO. 1911

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-16-36
☎03(3209)0638 FAX03(3200)0105
E-Mail:journal@utagoe.gr.jp
http://www.utagoe.gr.jp/journal/
振替口座 00120-6-5631 毎週月曜日発行

21世紀の道しるべ奏で

2003日本のうたごえ祭典 inながの特集Ⅱ

「数百億円を投じて建設されるコンクリートのダムは、看過ごし得ぬ負担を地球環境へと与えてしまう。…縦しんば、河川改修費用がダム建設より多額になろうとも、100年、200年先の子孫に残す資産としての河川・湖沼の価値を重視したい。日本の背骨に位置し、数多くの水源を擁する長野県に於いては出来る限り、コンクリートのダムを造るべきではない。…」。〝ながの祭典〟のキーワードは、この長野県の「脱ダム宣言」〝緑の憲法〟と恒久平和を希求する日本国憲法〝平和憲法〟だった。自衛隊の海外派兵が具体的に論議され、平和憲法の改悪の動きが進んでいる今の日本で、〝ながの祭典〟は、緑と平和、一人ひとりの〝いのちの輝き〟と共生の社会をめざす21世紀の道標を、大きく歌声で響かせた。

〝ながの祭典〟特集第二弾。上段の写真は、祭典公募曲・合唱組み歌「みどりとなった「緑のダムをつくろう」のシーン。

▲音楽会Ⅱ歌劇「沖縄」より「那覇の市場」、ソリスト㊧から「きよ子」柳沢里穂子、「正輝」相模豊、「音松」田中修司（11月16日、長野県民文化会館大ホール）㊦同・序章大合唱

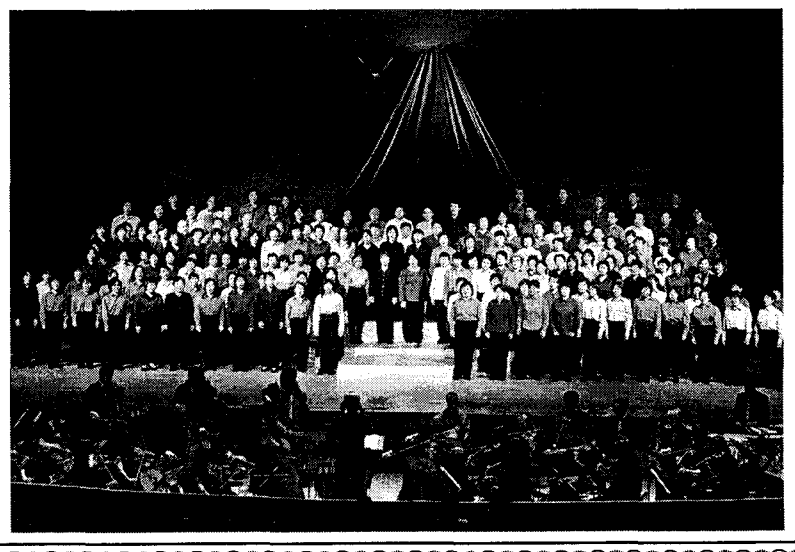
次代に手渡す 歌劇「沖縄」

写真㊤と㊦は今祭典で最も注目を集めた一つ、音楽会Ⅱの歌劇「沖縄」（ソロと合唱形式による）より（関連3、5面）。このステージは、一昨年3月、名古屋青年合唱団が28年ぶりにこの歌劇を演奏会形式で再演し、その一部が11月の2001年うたごえフェスティバル（神奈川・川崎）で再演されたことから始まる。そのリハーサルを見た今祭典祭典企画委員の一人、長野合唱団、国鉄長野うたう会の肥田雅宏さんが「ぜひながの祭典で」と提案。合唱形式、抜粋とはいえ歌劇の上演は至難だったが、浜島康弘名古屋青年合唱団団長と肥田さんの演出・構成でソロと200人余の大合唱で上演された。

歌は生きた碑

この上演は30年の時を経て、若い世代にも、うたごえ運動の音楽的財産を確かに手渡すシーンともなった。神戸市役所センター合唱団副指揮者、1971年生まれの立村勲さんは語る。「70年前後の時代が持っていた熱が凝縮して伝わってきた。社会の熱は時代を経て冷めていくが音楽は生きている。歌は生きた碑（いしぶみ）、と言われますが、フリーズドライから解凍された感じで新鮮に伝わってきた。この後もうたごえでオペラ制作が続いていたら、きっと日本のオペラシーンを変えただろう」。

12月8日は、先の戦争、日米開戦の日、そして今、不戦を誓う日である。米軍によって撃沈された学童疎開船「対馬丸」を歌った同団委嘱合唱組曲「海のトランペット」がうたごえとの出会いという立村さん。来年の日本のうたごえ祭典inおきなわと併せ、沖縄への距離は近くなった。



ふめんだハ

またもや新たな「自爆テロ」が頻発している。その犯行声明で「日本の兵士がイラクの土を踏んだ瞬間にアルカイダは東京の中心部を攻撃する」とのコメント。これへの川口外相の対応は「脅迫に屈することは相手の思うつぼ」だという。

☆ ★ ☆

イラク派兵の論議に際して小泉首相は「戦地に行けば、殺すことも殺されることもある」と無責任に言い放った。そして有事法制の実効化をめざす罰則付きの「国民統制法」の要旨決定。どんなに国民の生命が標的にされようと構わないという「翼賛政治」に、今こそノー！の声を大きく突きつけたいものだ。

☆ ★ ☆

「私たちは、殺したくも殺されたくもありません」と訴えた高校生たちの戦争協力拒否宣言。その根底にあるのは、まさに「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」という日本国憲法の決意そのものだろう。この二重の意味での私たちの責務を示した「憲法」を胸に、大いにうって出よう。長野で歌い上げた「五月の歌」から沖縄へ。私たちのうたごえは、たしかに北から南までこの国をつないでいるのだ。

（Y）